

ESDレポート vol.30

2013年初春 2013年1月17日発行

認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。環境・貧困・人権・平和など、私たちが直面するさまざまな問題に取り組み、豊かで公正な未来を創造するための「価値観」と「スキル」を育む、未来創造型の学びです。「国連持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」が2005年からスタートし、世界各国で取り組まれています。

Q. ESDは、学校における「総合的な学習の時間」とは異なるものですか？

※会員の皆さまからお寄せいただいたお考えを掲載しています。p.5にも回答の続きがあります。

●総合的な学習の時間（以下、総合学習）において環境、人権、国際理解などESDのエッセンスが盛り込まれたことを行うことができますが、総合学習のみならず各教科や特別活動など学校教育における様々な機会で行うことが必要だと思えます。実際に「ESDカレンダー」を作成して、教科を横断してESDに取り組んでいる学校もあります。（不二聖心女子学院中学・高等学校 加納健介）

●あらゆる教育コンテンツが「持続可能な…」のために、展開されていることが望ましいと思います。よって「総合的な学習の時間」も、ESDに則った内容であれば異なるものにはならず、端的な事柄を教えている場合は異なるでしょう。文部科学省のホームページの指導資料には「総合的な学習の時間」について、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断…」とありますが、その生徒が【何をテーマにするか】が問題ということです。

（フォーエヴァーグリーン 渡邊圭）

- 北陸では、異なるものとして扱います。
- ① ESDは学校だけでなくあらゆる教育・訓練の機会に導入されるべきと考えています。
- ② 学校におけるESDは、教科学習や生活科・総合的な学習の時間だけでなく、課外活動や生徒会活動なども含めた学校活動全体として取り組むべきと考えます。
- ③ 学習課程に限った場合でも、生活科や総合的な学習の時間と各教科とのつながりを考える必要があると考えています。（金沢大学 鈴木克徳）

次号のQ&Aは、「Q. 持続可能な地域づくりに欠かせないものは何ですか？」です。

特集 国際ネットワークの構築に向けて

昨年6月の国連持続可能な開発会議（リオ+20）を踏まえて、ESD-Jでは10月にリオ+20報告会を、11月に公開国際フォーラムを開催しました。今号ではESDの推進に向けたアジアと日本の取組みを特集します。

目次

Q. ESDは、学校における「総合的な学習の時間」とは異なるものですか？ 1,5

特集 国際ネットワークの構築に向けて

| | |
|------------|--|
| 公開国際フォーラム | アジアの市民社会組織によるさらなるESD推進にむけて 2 |
| リオ+20報告会 | リオ+20を踏まえた今後のESD展開の加速化 4 |
| 地球市民会議2012 | これからのESD構想・つなぐ仕組みづくり・ポスト2014年の提案 5 |

| | |
|--------------------------|---------|
| トピックス 各地で開催 ESD関連イベント | 6 |
| オススメ書籍のご紹介/新メンバー紹介/今後の予定 | 6 |
| 事務所が移転しました | 6 |



アジアの市民社会組織によるさらなる ESD

～ 2014 年以降を見すえて、公開国際フォーラムを開催～

基調講演

UNDESD – 2014 年以降に向けて

望月要子さん

6 月に開催されたリオ +20 において、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年以降も、持続可能な開発のための教育を促進すること」が成果文書に盛り込まれました。今後の課題は、ESD を試験段階から政策の中に統合する段階に移行していくこと、様々な地域で取り組まれている ESD 活動を点から面へ展開していくこと、テーマ別に行われている実践を教育セクターに統合して ESD の主流化を図っていくこと等が求められます。この「ESD の主流化戦略」として、

- 「持続可能な開発」を教育に取り入れる。
- 教育を「持続可能な開発」に取り入れる。

この二つが混在して議論されることが多かったために「ESD はわかりにくい」というご指摘もありましたが、「混在して」ではなく「両輪に」なっていくような形で進めていけたらと考えています。

2014 年以降の国際的な枠組みには、三つの柱が考えられます。一つ目は「政策」。国際レベル・国内レベルでの重要な政策に ESD を取り入れていくこと。二つ目は「実践」。広く世界で利用できるような教材を開発し、明確な目標を立てて各国で推進していくこと。三つ目は「ESD 支援と実践の仕組み」。今日お集まりの皆さんによるアジア NGO ESD ネットワーク構想もその一つと言えるでしょう。

2014 年にユネスコにより開催される ESD 世界会議を経て、「質の高い教育や持続可能な開発の進展のために ESD が重要なパラダイムだとみなされる」といったシナリオをユネスコでは描いています。



望月要子氏

コロンビア大学教育学大学院非常勤講師（比較教育社会学）、国連大学高等研究所（UNU-IAS）ESD スペシャリストを経て、2011 年よりユネスコ本部教育局 ESD 課のプログラム・スペシャリスト。ユネスコでは主に ESD の視点からの気候変動教育プログラムならびに国連 ESD の 10 年最終年会合（2014 年 ESD ユネスコ世界会議）準備に携わる。



アジアの NGO からの報告

はじめにフィリピンのエリザベス・ロハスさんが、コミュニティ・ビルディングにおけるラジオをはじめとしたメディアの役割について報告すると、中国のザン・ディーさんは、「白雪姫が（化学物質に）汚染されたリンゴを食べたらどうなるか」というユニークな演劇など中国で取り組んでいる様々な環境活動について紹介しました。

インドのアトゥール・パンディヤさんは、「教育が生んだものを経済が吸収していくこれまでの形ではインドの貧困はなくならないし持続可能な社会ともつながらぬ」と力強く主張。インドネシアのフェリ・プリハントロさんは、伝統的な生活を続けて政府にも保護されているバドゥイ地区を紹介し、「この生活そのものが持続可能で様々なことを学べる」と報告しました。

リオ +20 報告 ～ ESD の視点から

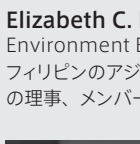
ESD-J 国際プログラムコーディネーターの野口扶美子さんは、「“教育”に関する理解が国によって違って“教育”と“キャパシティ・ビルディング”は違うものなのか改めて考えさせられた」、ESD-J 理事の名執芳博さんは「“生物多様性”と連携して考えることで 2014 年以降の ESD の役割や可能性が見えてくるように感じた」とそれぞれの所感を報告。

ESD-J 共同代表の阿部治さんは、「過去にないほど多様なステークホルダーが参加した会議でそれ自体が大きな成果。国連や政府機関だけではもうゴールを達成できない、新しい連携のあり方をつくっていく良い機会になったと言えるのではないか」と述べました。



Atul Pandya アトゥール・パンディヤ氏（インド）

Centre for Environment Education : CEE、地域プログラムディレクター
CEE において、環境教育モジュールの教育と学習、ダーウィン・イニシアティブなどのプログラムを実施。北ジャラート大学地方教授の調査理事会のメンバーも兼任。



Elizabeth C. Roxas エリザベス・ロハス氏（フィリピン）

Environment Broadcast Circle : EBC、Executive Director
フィリピンのアジェンダ 21 策定に加わり、その普及を積極的に推進。数多くの市民社会組織の理事、メンバーでもある。



Feri Prihantoro フェリ・プリハントロ氏（インドネシア）

BINTARI 財団、Executive Director
環境に限定されない幅広い活動を実施。北九州国際技術協力協会（KITA）と協働で、セマラン市環境教育リーダー育成プログラム等を実施。



Zhang Di ザン・ディー氏（中国）

Envirofriends Institute of Environmental Science and Technology, Project Officer
ウォータールー大学環境学修士。過剰包装に関する研究、グリーン・チョイス連盟、自然之友から引き継ぐ ESD-C のプロジェクトを担当している。



推進にむけて

21世紀、アジアは世界の持続可能性に大きな鍵を握っています。アジアの持続可能な開発の基盤となる地域の教育やエンパワーメントを実現するESDは、重要な役割を果たします。

2012年11月に開催されたアジアESD NGOネットワーク公開国際フォーラムでは、リオ+20の成果を共有し、ESDの10年の最終年である2014年に向け、そしてそれ以降の、アジアの市民社会組織によるさらなるESDの推進に向けた議論が行われました。

今後に向けて ～ESDに関する アジアNGOネットワーク設立へ～

ESD-J 理事 鈴木克徳さん

2005年、各国のNGOがネットワークを築いていくための議論が行われましたがうまくいきませんでした。現場でのESD活動の連携協力が必要なのではないかと、2006年から2008年にかけてアジア各地のESDの優良事例を文書化するというAGEPPプロジェクトが行われました。

本日のフォーラムに先立ち、2014年に向けてアジアのNGOがお互いの情報や経験を共有できるネットワークの必要性が再確認されました。フォーマルなネットワークではなくインフォーマルでプロジェクトベースのネットワークを作ろうと話しました。さらなる事例の文書化を進めるとともに、文書化だけにターゲットを置くのではなく、実際に現場での変革を進めていく中でそのプロセスを文書化できるようなネットワークを推進していくべきだと合意しました。

* AGEPP：アジア実践事例交流事業
(この後、会場との全体討議が行われました。)

閉会挨拶

ESD-J 共同代表 阿部治さん

これまでESDを進めてくる中で、教育の刷新や転換は十分可能であると確信を得ている人は少なくないと思います。しかしそれが定着しているとは言えません。

今改めてESDの「見える化」「つながる化」を考えると、現在行われている様々な実践を見ていくことが大事になるでしょう。それが持続可能性につながっていくことを、AGEPPを通じて私たちは目の当たりにしてきました。その意味でも、アジアのネットワークを、お互いを尊重しつつ持続可能な未来に向けてさらに進めていくための仕組みとして構築することが重要になります。2014年を生かし、2015年以降もESDを継続発展させていく仕組みをどうつくっていくのか。アジアのネットワークとして、あるいは日本として、ESDのエンジンをどう力強くしていくのか、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

(取材・文：中川哲雄)



参加者アンケートでは、「ノンフォーマルの事例共有は、ユネスコが学校教育に目がいきがちなか中であって、ブレークスルーを起こしていけるのではと大きな期待を持った」「単につながるだけでなく、具体的な活動のためのネットワークというのは重要」「アジア内の南北問題、経済発展の課題、資源の公平な分配のための議論が実現できるような、草の根のネットワークができれば！」などの期待の声が寄せられました。

アジアESD NGOネットワーク公開国際フォーラム

国連持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)およびUNDESD以降のアジアの市民社会組織によるさらなるESD推進にむけて

日時：2012年11月30日(金)
場所：立教大学太刀川記念館
主催：ESD-J
共催：立教大学ESD研究所

会合の目的

- 1) リオ+20に関連したアジアの地域コミュニティにおける市民社会組織(CSO)の活動・経験の共有
- 2) ESDの視点からの、リオ+20の主な成果に関する意見交換
- 3) UNDESDにおける、アジアの市民社会組織とNGOによるESDに関する取組の経験共有一國連その他国際機関、政府、教育機関や、その他の関連するステークホルダーとのパートナーシップを含む
- 4) ESDのさらなる推進に向けた戦略とロードマップ作りに向けた検討一特に、2014年のDESD最終年以降のアジアのNGOによるESDネットワーク(Asian NGO Network on ESD: ANNE)に期待される役割及びその構築プロセスについて集中的に討議する

プログラム

モデレーター：鈴木克徳(ESD-J理事)

13:30-13:40 開会あいさつ

阿部治(ESD-J共同代表)

13:40-14:10 基調講演

望月要子氏(ユネスコESDセクションプログラムスペシャリスト)

14:10-15:10 アジアのNGOからの報告

(4団体×15分)

エリザベス・ロハス氏(EBC・フィリピン)

ザン・ディー氏(EnviroFriends・中国)

アトゥール・パンディヤ氏(CEE・インド)

フェリ・ブリハントロ氏(BINTARI財団・インドネシア)

15:10-15:40 リオ+20報告～ESDの視点から

阿部治(ESD-J共同代表/立教大学ESD研究所所長)

名執芳博(ESD-J理事)

野口扶美子(ESD-J国際プログラムコーディネーター)

15:40-16:00 質疑応答

16:15-16:30 今後に向けて～ESDに関する アジアNGOネットワーク設立へ

鈴木克徳

16:30-16:55 全体討議

16:55-17:00 閉会挨拶

阿部治

リオ+20 を踏まえた今後の ESD 展開の加速化

10/6(土)「リオ+20報告会」を開催しました

2012年6月に開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」において、ESD-Jは公式サイドイベントの開催、各種の関連サイドイベント等への参加・貢献、リオ+20に参加した様々な関係者との情報・意見交換、グローバルな、またはアジアにおけるESD推進に向けたアピール等を行いました。ESDという観点からはリオ+20は着実な進展が得られましたが、他方で持続可能な開発(SD)やESDを推進する上での課題も明らかになったように思われます。

リオ+20におけるESD-Jの活動報告、ESDの視点からのリオ+20の成果と課題について議論するため、2012年10月6日(土)夜、立教大学池袋キャンパスでESD-Jによる「リオ+20報告会」が開かれました。報告会では、リオでESD-Jが行ったサイドイベントのDVD上映の後、ESD-J国際プログラム・コーディネーターの野口扶美子さんからの報告を中心に、ESD-J代表理事/立教大学ESD研究所長の阿部治さん、ESD-J理事の名執芳博さんというリオ+20参加者による所感の発表が行われました。その後、リオ+20の成果を踏まえた今後の課題、2014年のESD世界会合及びその後にに向けた活動などについて活発な討議と意見交換が行われました。討議における主な指摘事項には、国連持続可能な開発のための教育の10年を超えたESD推進の必要性が世界的に合意されたこと等への積極的な評価があった一方、日本のメディアやNGOの参加の少なさに象徴されるようなリオ+20に対する我が国の関心の低さ、ESDに関わる多様な国際ネットワークの連携協力の弱さなどの課題の指摘等幅広い意見交換・討議がなされました。

(ESD-J理事/金沢大学 鈴木克徳)

● ESD-Jの今後の対応 ←リオ+20の成果を受けて

リオ+20の成果について、ESD-Jの報告会では以下のような指摘がなされました。

- 国連持続可能な開発のための教育の10年を超えてESDを推進する必要性が世界的に合意されたことは大きな成果。また、多くの高等教育機関による自発的コミットメントがなされたことにも注目すべき。リオ+20で合意された「持続可能な開発目標(SDGs)」へのESDの統合が重要。
- 20年前の地球サミットと比べて、様々なステークホルダーの参加と関与が著しく増えたことは特筆されるべき。他方、今回の合意文書の作成プロセスは、必ずしも市民社会からの貢献が十分反映されていない不透明なプロセスであったことは反省されるべき。
- 日本政府のプレゼンスが不十分と感じられた。また、日本のメディアやNGOの参加も比較的少なかったことは、リオ+20に対する我が国の関心の低さを象徴していた。
- 日本のSDへの取組みは国際的に評価されているが、産官学民の取組みはばらばら。ステークホルダー間のつながりや連携の強化が課題。
- ESDに関わる国際的ネットワークが連携協力して交渉を行えなかったことは残念。
- ESDの議論が教育セクターに特化しすぎていて、持続可能な社会づくりのための地域でのキャパシティ・ビルディングとつながっていないことは大きな課題。

それらの指摘を踏まえ、ESD-Jとしては、今後以下の活動を強化していきます。

- リオ+20が我が国及び世界のESD推進にどのような影響を及ぼしたのか、内外の関係者にESD推進という視点に立って周知します。
- リオ+20の成果を踏まえ、2014年DESD世界会合に向けて、内外の関係者との連携の下で一層ESDの推進を図っていきます。
- アジアの市民社会との連携・協働に関し、ESD-Jは、2014年にアジアの市民社会のネットワーク(Asian NGO Network on ESD: ANNE)を立ち上げるべく関連活動を強化します。



「ESDの10年・地球市民会議2012」が開催されました

これからのESD構想・つなぐ仕組みづくり・ポスト2014年の提案

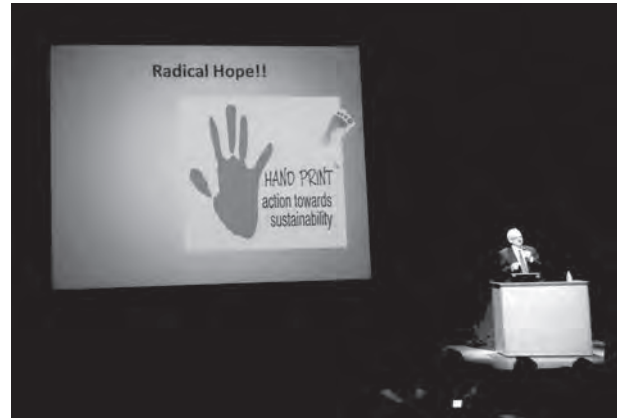
ESDの多彩なステークホルダーの「対話」と「交流」を推進する「ESDの10年・地球市民会議」が11月27日に都内で開催されました。これは毎年「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラムが開催してきたもので、本年度は文部科学省と日本ユネスコ国内委員会が主催しての開催となりました。翌28日には同じ会場で同推進フォーラムが主催となり、「ESDテーマ会議2012」が開催され、前日の会議と連携した議論が行われました。

* * * * *

27日は、基調報告「2014年、DESD最終年への取り組みと世界の潮流について、現場からの最新報告。」にユネスコをはじめ、世界各国のキーパーソンから報告が行われ、その後「日本のESD事例報告」としてRCE、ユネスコスクール、企業、最終年合開催都市の報告、さらに「中国からのESD実践事例特別報告」が行われた。

この中でESD-J重代表が、これまでのESD-Jの推進活動の成果を述べ、これからのESD推進の構想づくり、つなぐ仕組みづくり、2014年以降のオールジャパンでのESD推進について語った。

28日は、個別テーマワークショップとして「防災教育と気候変動教育」、「生物多様性とESD」、「持続可能な生産と消費」、「歴史文化遺産と人材育成」、「貧困撲滅と社会的公正のための教育」をテーマにした議論が行われ、「クロージングセッション」では、ESD-J阿部・重代表のコーディネートにより、パネリストと参加者が、「具体的にESDをどうすすめるか。学びを日常化していくこと」、「5つのテーマのつながり」、「つなぐ装置としてのESDを2014年以降どうするか」、「全国のESD情報をつなぐ仕組み」、「ユネスコ会合にどうインプットするか」、「無関心層の取り込み」、「震災からの再生」などを論議した。
(ESD-J理事 長岡素彦)



● 総合学習は各教科と並列的あるいは選択的、付加的に設けられたものと判断される。ESDは総合的で各教科を関連付ける高次の重要で必須な義務的な教科という位置づけである。これまでの人類は環境に配慮しないで行動する社会的単細胞動物であった。地球環境の有限性を認識して持続可能な社会の中で生き抜いていくには環境に配慮して行動する社会的多細胞生物に進化しなければならない。このために必要なのがESDで義務教育である。

(洗剤・環境科学研究会 天谷和夫)

Q. ESDは学校における「総合的な学習の時間」とは異なるものですか？

表紙ページからの続きです。

● 教科等とつながって、探究的、問題解決的な学習をきちんとやっている「総合的な学習の時間」は、ほぼESDである。ただ、現在の学校で行われている「総合的な学習の時間」では、単なる体験や調べ学習にとどまっている事例も多い。それはESDではない。学校におけるESDは、「総合的な学習の時間」が柱となることは、間違いない。

(愛知県総合教育センター 櫛田敏宏)

● 異なると思います。それは、特に公教育においては不可能に近い、庶民の暮らしの実感の中からは生まれ得ない発想により構築されるものではないかと考えるからです。持続可能性の対極は、無意味な競争・差別・排除・分断ではないでしょうか？自然、環境、風習、性別、年齢、障がいの有無、生き方に至るまでの多様なあり方を認め合い、マイノリティーが主役になるような（むしろオールマイノリティーの世の中であり得るような）教えと学びが、今、必要です。
(株式会社橋本企画 橋本弥寿子)

● ESDは学校における「総合的な学習の時間」とは同じところと違うところがあります。同じところは、横断的、つまり、分野横断的、教科横断的に学習を総合的に行うことです。違うところは、未来を見据えて、学習し、考えるだけでなく、学校、地域や世界で未来をつくる行動をすることです。

(ESD学校教育研究会 長岡素彦)



● 文部科学省の指導書を見ると「総合的な学習の時間」のねらいは、児童生徒に身につけさせたいESDの基礎スキルと合致すると思います。しかし同じ目的で総合の授業をしても、ESD推進側が「ESD的」と感じるかどうかは、指導に当たる教員の「持続可能性」に対する意識次第だなあと常々感じます。また、多摩市ではすべての学校が地域と連携したESDに取り組もうとしています。多くは「総合」の枠組み中心ですが、柔軟に社会科や理科など各教科でも行っています。あくまでも「総合」は枠組み、「ESD」は、子どもを育てたい方向性という認識が徐々に広がっているように感じます。
(多摩市立青陵中学校 佐々木雅一)



トピックス 各地で開催 ESD 関連イベント

昨秋は全国各地で様々な ESD 関連イベントが活発に開催されました。その一部をご紹介します。

愛知

2012 年秋、愛知・名古屋では ESD に関するイベントが目白おでした。「環境デーなごや 2012」ESD に関する特別企画、「ESD 全国学びあいフォーラム in あいち・なごや」、「あいち ESD フェスタ 2012」、岡崎市内の中学校における ESD 研究発表会（全国から約 500 名参加！）、愛知県総合教育センターでの ESD に関する研究発表会（約 130 名の教員が参加！）、ESD フォーラム 2012 など他にもたくさん！新聞紙面にも取り上げられ、ESD 連帯の輪がアメーバのように広がりつつあることを感じています。あと 2 年で「ESD がいかに市民権を得るか」、日々奮闘している AICHI/NAGOYA です。（中部環境パートナーシップオフィス 新海洋子）



岡山

岡山では、毎年開催している「ESD ウィーク」を、本年度は 2014 年の「ESD に関するユネスコ世界会議」の日程に合わせて、10 月 1 日～11 月 30 日の日程で開催しました。岡山市・岡山 ESD 推進協議会が行う講演会やワークショップをはじめ、公民館や重点取組組織が行う ESD 関連行事など、70 以上の行事が行われました。中には「ESD 全国学びあいフォーラム」といった全国規模の関連行事もありました。全体的に学びあいを重視した参加型のワークショップを取り入れた行事が多く、連帯感とオーナーシップを強く感じた ESD ウィークでした。（岡山ユネスコ協会 池田満之）



オススメ書籍のご紹介



持続可能な社会のための環境教育シリーズ [4]
持続可能な開発のための教育
ESD 入門

定価：2800 円＋税 発行：筑波書房
佐藤真久／阿部治 編著 阿部治／朝岡幸彦 監修
ESD は国際的にどのように位置付けられ、評価され、どの方向に進もうとしているのか？ ESD は世界各国でどのように取り組まれているのか？ そんな問いに答えてくれる一冊です。世界の鏡を通して、日本の ESD のあり方を探ってみませんか。（ESD-J 事務局 村上千里）

新メンバー紹介

8～12月

6 団体、15 名の方が
新メンバーに加わりました。

団体正会員 豊島区立南池袋小学校、公益財団法人 五井平和財団、NPO 法人ぐりーんぐらす

団体準会員 NPO 法人よっぺいばらき、まるやま組、他 1 団体

個人会員 15 名（関東 7 名、中部 3 名、北陸 2 名、近畿 1 名、四国 1 名、九州 1 名）

◆ 今後の予定 ◆

1月26日(土)
関東ESD学びあいフォーラム2013

(於:ガールスカウト会館)
活動の実践者や地域のコーディネーターの皆さまと、活動を持続可能な地域づくりや人づくりにつなげていくポイントを共有することを目指します。
※詳細は ESD-J ウェブサイトでご確認ください。

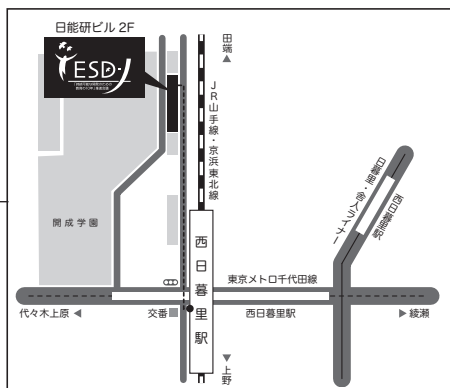
1月31日(木)
臨時総会
(於:日能研ビル ←ESD-J新事務所のあるビル)

6月15-16日(土・日)
ESD-J全国ミーティング2013
(於:岡山大学)
年に一度、全国の ESD 推進者が集まり情報を共有します。※詳細は決まり次第 ESD-J ウェブサイトに掲載予定。

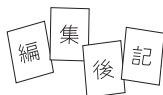
事務所が移転しました

2013 年 1 月より、ESD-J 事務局が以下に移転しました。新オフィスは西日暮里駅から近い便利な場所となります。

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里 5-38-5
日能研ビル 201
TEL : 03-5834-2061
FAX : 03-5834-2062



JR 山手線・京浜東北線、東京メトロ千代田線
「西日暮里駅」から徒歩 5 分



2013 年新春、ESD-J は西日暮里の新しいオフィスで活動をスタートしました。同じフロアには、「NPO 法人日本エコツーリズムセンター」と「一般社団法人 RQ 災害教育センター」が入居されています。エコツーリズムと災害教育はいずれも ESD の重要なテーマ。各地の素晴らしい実践者が集うこのビルを拠点に、2014 年に向けて「展望を形に」していきたいと思えます。東京駅からも近くなりました。ぜひお立ち寄りください！（ESD-J 事務局 村上千里）

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

http : //www.esd-j.org/ e-mail : admin@esd-j.org
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル201
TEL : 03-5834-2061 FAX : 03-5834-2062

● 会員募集中 : 正会員 (10,000 円)、準会員 (3,000 円) 詳しくは HP をご覧ください ●



発行:認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集:ESDレポート編集チーム レイアウト:河村久美

※ ESD-J では、本年度より『ESD レポート』に加えて、新たにコーディネーター情報誌「未来へつなぐ」を発行しております。ぜひ、どちらもあわせてお楽しみください。



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、輸送マイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。